

研究基盤イノベーション分科会・文部科学省 連携企画

研究基盤 EXPO 2022

2022.1/269-289

オンライン開催 参加費無料

1/26 *

令和3年度

先端研究基盤共用 促進事業シンポジウム

「文部科学省が実施する先端研究基盤共用促進事業」「先端研究設備プラットフォームプログラム」「コアファシリティ構築支援プログラム」の活動報告を通して、産学官の研究者に開かれた研究設備・機器の実現に向けた、大学・研究機関の先進的な取組を紹介します。

1/27*

第1回

研究基盤協議会 シンポジウム

文部科学省で策定する「大学等における研究 設備・機器の共用化のためのガイドライン」 の最新の状況と研究基盤協議会のガイドライ ンへの貢献を報告します。また、研究環境の デジタルトランスフォーメーション (LabDX) と題して研究設備遠隔化の未来を、研究者、 技術職員、メーカー技術者と議論します。 1/28 🛳

第2回

研究基盤イノベーション 分科会シンポジウム

今年も若手技術職員と若手文部科学省職員が、研究環境について議論します。また、省庁セッションでは、研究基盤の現状分析、エビデンスに基づく政策立案、若手が活躍できる研究環境構築への思いや現場への期待についてお話頂きます。関係者が集い、より良い研究環境の構築に向けた「研究基盤・共用システムの役割と成長」を考える機会とします。

主催:研究・イノベーション学会 研究基盤イノベーション分科会

共催:文部科学省、研究基盤協議会

後援:国立大学法人 金沢大学、一般社団法人日本分析機器工業会

お問い合わせ先

研究基盤イノベーション分科会事務局

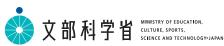
E-mail: koho@iris-jsrpim.jp

シンポジウムの詳細、参加登録はこちらから https://iris.kagoyacloud.com/riexpo2022/

事前参加登録制・登録締切 2022 年 **1** 月 **19** 日 (水)











研究基盤イノベーション分科会 及び研究基盤協議会

産学官が有する研究施設・設備・機器・技術といった「研究基盤」は、あらゆる科学技術イノベーション活動を支え、その戦略的な整備は 本来重要な政策課題です。しかし、これまで研究基盤に対する政策的関心は低く、関連する予算・事業規模も限定的であったため、大学等 における研究基盤の整備は進んでいない状況です。そのため、研究基盤に関する政策研究や IR (Institutional Research)、設備や技術 のデータベースの整備、それらを取りまとめるための専門人材の確保も十分とはいえません。研究基盤イノベーション分科会はこうした課 題に対し、産学官のステークホルダーが組織や立場を超えてオープンかつフェアに議論するための「場」となるべく設立されました。また、 研究基盤協議会は文部科学省事業採択校の有志を中心にした国公私大そのほか関係機関を含む多様なステークホルダーが議論する新た な協議の場として設立され、研究基盤イノベーション分科会とクロスオーバーしながら活動しています。





研究基盤を学術的に捉え、議論する場

研究・イノベーション学会 研究基盤イノベーション分科会 (IRIS)

- リサーチ・アナリシス機能 (研究基盤を科学し年会・論文で発表する。研究基盤の議論に活かす)
- アーカイス機能 (研究基盤に関わる情報を保存し、誰もが閲覧可能とする)
- > プランニング機能 (研究基盤協議会提案分の企画立案の実現化に向けた取組) (学会員限定の企画立案実施)







研究基盤協議会

- ●協議すべきテーマは部会化、部会がアンケート調査・分析などを行い 議論をリードする
- ●新規テーマの提案=新部会の立ち上げは随時可能
- ▶ クロスオーバー機能 (各ステークホルダーが組織・立場を超えて研究基盤を議論する)
- 戦略的経営に資する研究基盤 1 のあり方を検討
- 研究基盤共用システム 部会 (研究基盤 IR 含) のあり方を検討
- 研究基盤に関わる人材育成 部会 3 (技術職員等) のあり方を検討
 - 地方・地域貢献に資する 大学等の研究基盤のあり方を検討

アドバイザリ-

若手 若手が自由闊達に議論

今年度の活動: 文科省ガイドライン / ガイドスック作成に提言

アウトリーチ機能:年に1度の総合シンポジウムの開催(幹事校を中心とした実行委員会にて開催、研究基盤に関わる情報を収集し、適切に発信する)

> 共同事務局 総務: 1 名簿・連絡先等、個人情報の管理 2 会議日程・会場等の調整や連絡 3 議事録作成・保管

財務: 1 予算管理 2 予算配分 (研究基盤協議会の活動にIRIS の予算を一部~全額投入) 2 会計報告

広報: 1 HP の維持・管理・アクセス分析 2 HP や SNS による情報発信を目的とした入力作業

3 提供された資料(原稿等)の内容確認・確保・管理 4 広報室活動の活性化・改善につながる提案